

様式1 令和6年度 山梨県立ひばりが丘高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

| | |
|-----------|---|
| 学校目標・経営方針 | 自分に誇りを持ち自己を磨き、毎日を生き生きと学ぶ生徒。自分を見つめ困難に打ち克つ生徒。社会人として自立し役割を担うことのできる生徒の育成。 |
|-----------|---|

山梨県立ひばりが丘高等学校校長 上村 泰子

| | | | |
|----------|----------------------------------|-----|-------------------|
| 本年度の重点目標 | 1 自主的・自律的な生徒の育成 | 達成度 | A ほぼ達成できた。(8割以上) |
| | 2 自己肯定感・自己有用感の育成 | | B 概ね達成できた。(6割以上) |
| | 3 心身の健康の保持増進及び基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 | | C 不十分である。(4割以上) |
| | 4 社会性や公共性・道徳心の習得 | | D 達成できなかった。(4割以下) |

| | |
|----|--------------|
| 評価 | 4 良くできている。 |
| | 3 できている。 |
| | 2 あまりできていない。 |
| | 1 できていない。 |

| 自 己 評 価 | | | | | | |
|---------|--------------------------------|---|--|--|-----|--|
| 番号 | 評価項目 | 本年度の重点目標 具体的方策 | 方策の評価指標 | 年度末評価(2月1日現在) | | |
| | | | | 自己評価結果 | 達成度 | 成果と次年度への課題・改善策 |
| 1 | 自主的・自律的な生徒の育成 | 生徒に寄り添い、「創作授業」や「表現の時間」等により、個々の生徒の長所を引き出し、育てる指導により、自主的自律的な態度の育成に努める。 部活動や委員会活動等の生徒主体の活動を活性化することにより、自主的自律的な態度の育成に努める。 | 学校評価アンケート | ・生徒に寄り添い、個々の長所を引き出し育てる指導は9割以上が肯定的に回答した。また生徒からの回答も8割を超えていた。 ・部活動や委員会活動等の生徒主体の活動を活性化する指導は8割が肯定的に回答した。 | B | ・寄り添う指導は多くの教師が達成できているが、部活動や委員会活動等の生徒が主体的に活動できる環境づくりや支援にはまだ改善すべき点がある。 |
| 2 | 自己肯定感・自己有用感の育成 | AIDリルによる個に応じた学習支援や授業のユニバーサルデザイン化を図る。また、主体的に対話的な学びの実践等により、学習意欲を喚起して学力向上に努める。 総合的な探究の時間における体験的な学習や集団活動により、社会を生き抜く力や課題を解決する力の育成に努めると共に、「創作授業」や「表現の時間」等により、自己肯定感・自己有用感の醸成や自己実現に努める。 「表現の時間」「読書活動の時間」「校外学習」等により、他者の言葉に耳を傾け、社会に目を向けることで、自分らしい生き方を追求する態度の育成に努める。 | 授業観察・学校評価アンケート・授業アンケート・基礎学力診断テスト 学校評価アンケート 学校評価アンケート | ・個に応じた学習支援や授業のUD化についてはほぼ全ての教師が肯定的な回答をしている。 ・体験的な学習や創作授業、表現の授業などの機会を活用し、生徒の自己肯定感・自己有用感を育成する指導に対しては、9割以上が肯定的に回答した。 ・社会に目を向け、自分らしい生き方を追求する態度の育成については、9割が肯定的に回答した。 | A | ・AIDリルによる個に応じた学習支援や学習意欲を喚起するような支援について、生徒の否定的な回答が2割程度まで増えたことを考慮し、分ける授業づくりや主体的に対話的な深い学びになるような学習指導を目指す。 ・総合的な探究の時間や特別活動を活用して体験的な学びを充実させることが生徒の自己肯定感や自己有用感、達成感につながるため、継続的に教育活動に取り入れていきたい。さらに地域の力を活用し、社会を生き抜く力をつけられるように学びをさらに発展させたい。 |
| 3 | 心身の健康の保持増進及び基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 | 日常の健康観察やカウンセリング、「通級による指導」等により、心身の健康の保持増進や自己理解、コミュニケーション力の向上に努める。 ホームルーム活動や日常の声かけ・生活指導等により、健康的な生活習慣の確立と規範意識の向上に努める。 | 学校評価アンケート・自己評価アンケート(通級) 学校評価アンケート | ・カウンセリング、通級による指導等により、心身の健康保持増進や自己理解、コミュニケーション力の向上に努めているという回答は、ほぼ全ての教員が肯定的に回答した。しかし一方で、生徒の1割強が否定的に回答した。 ・健康的な生活習慣の確立と規範意識の向上に対する指導については教師も生徒も9割が肯定的に回答した。 | B | ・健康的な生活習慣の確立と規範意識の向上について、教師の日々の指導は伝わっていることは分かるが、生徒の行動にはまだ十分に反映していない。粘り強く、家庭とも連携した指導を継続していきたい。 ・課題が表面化していない生徒も多くいるため、教師は多様な背景を持つ生徒の困難を把握する力をさらに高めていきたい。 |
| 4 | 社会性や公共性・道徳心の習得 | インターンシップや日常の挨拶・対話等により、いじめを生み出さない望ましい人間関係・社会性・道徳心の育成に努める。 日常の清掃やボランティア活動、愛校作業等により、他人を思いやり、協力と奉仕のできる公共心・責任感・協調性・豊かな心の育成に努める。 | 学校評価アンケート・いじめアンケート 学校評価アンケート | ・日常の挨拶・対話等により望ましい人間関係・社会性を育成する指導について、教師はほぼ全てが肯定的に回答した。いじめアンケートも0件であった。しかし、生徒の回答の中には、1割ではあるが、否定的なものがあった。 ・日常の清掃やボランティア活動等により、協力と奉仕のできる公共心・責任感・協調性・豊かな心の育成について、教師の否定的な回答が2割弱見られた。 | B | ・日常の挨拶や対話により、教師と生徒の関係づくりはできているが、社会性を身につけさせるためには、場に応じた言葉遣いやソーシャルスキルの育成なども指導が必要である。 ・清掃活動やボランティア活動など、奉仕の心や公共心を養うような教育機会を設けたり、道徳心を養うような授業や教育活動を組み込んでいきたい。 |

| 学校関係者評価 | |
|----------------|---|
| 実施日(令和7年2月28日) | |
| 評価 | 意見・要望等 |
| 4 | ・学校見学や委員会での報告から、先生方が生徒に丁寧に関わり添おうとする志の高さを感じ、それが実を結んでいることを実感しています。ただ、寄り添えたかどうかを決めるのは生徒の側です。先生方の9割以上が肯定的な回答というのは素晴らしいことですが、生徒の回答が下回っている点は心に留め、引き続き、きめ細かなご指導をお願いいたします。 ・自己評価90%以上、生徒・保護者80%以上の肯定的な回答もあり、授業見学の様子からも学校の具体的な方策は良い結果につながっていると考える。 ・より高い達成度に向けてだと考えられるが、改善点があるとの自己評価があるので、具体的な改善策を明確にし、さらに上を目指して全職員で取り組んでいただきたい。 ・生徒の特性上、全員が自主的に特別教育活動に積極的に取り組むことは困難な場面があるかもしれないが、一部の活動については教職員の後押しで成果が上がっている。自己肯定感の醸成は自主性・自律を醸成するために、最も大切な要素である。こうした地道な活動の効果が、学校教育活動全体に波及することを望みます。 ・概ね達成できている、と感じている。何回か見させて頂いた授業参観での生徒たちの様子は、各自が自分の課題を把握し、それに向かい自分のペースで、自主的に取り組む生徒たちの様子が感じられた。より一層正確な評価の判断を必要とするのならば、学校評議員が授業参加だけでは無く、学校生活の色々な場面で生徒たちの活動の様子を見取っていく必要がある。例えば、行事、部活動、委員会活動、学級活動、など。 |
| 4 | ・個に応じた学習保障のためのAIDリルを来年度から授業として開講するにあたり、生徒からの否定的な意見に耳を傾け、学習が二極化しないよう配慮願います。刹那的な「できた達成感」より、長続きする「わかる達成感」を大切にしていきたいと考えています。自己肯定感について、生徒が「先生たちに大切にしてもらえた」と実感できる貴校の取り組みは素晴らしいと思います。 ・自己評価において高評価であり、授業の様子を見ても、生徒が自分のペースで学び、理解している様子が見られた。日々の教育活動の中で、生徒と教師の信頼関係のもと生徒が安心して学校生活を送り、自己肯定感や自己有用感が育成されていることが伝わってきた。 ・教育課程外ではあると思うが、部活動等の成果もあり、自己肯定感や自己有用感が育成されていると感じた。 ・授業見学を通して、ICTの活用や、きめ細やかな少人数制の授業により、学び直しの学習が確実に行われている。『できないこと』『できた』に進化したときに、より確かな動機付けに繋がると考えます。教員定数を確保し、本講の特色ある授業を継続してください。 ・各先生方の達成感を感じて、この項目がすべての項目の中で、一番成果が上がっていると感じる。生徒が総合や特活の時間に体験的な活動に取り組むことによって、自己肯定感や自己有用感、達成感に繋がっている、と多くが評価していることが一番の要因だと思う。今後は、学校内だけではなく、地域との繋がりを考慮しつつ、更に一つ上の学びを構築して欲しい。 |
| 3 | ・きめ細かなカウンセリングや「通級による指導」、また、生徒理解のための「生徒支援研究会」など先進的な取り組みを進めている貴校の存在価値はとても大きいと感じています。生徒の課題について、表面的な言動だけでなく、潜在的な事柄にまで心を配る教職員集団の努力により、生徒たちに「受け止めてもらっている」という安心感が宿っていると感じます。 ・特性の強い生徒集団であることが予想される中で、落ち着いた雰囲気や学校生活が送れていることは、日頃の指導の賜であると考えます。個に応じて接方を変えることは、だいぶ神経を使う場面も多いと思いますが、今後ともご指導をよろしく願います。 ・生活習慣と規範意識は繋がるところがあると思います。規範意識を高め、行動に移せる生徒支援をお願いします。 ・生徒を取り巻く環境は、現実の世界と仮想空間が混在する時代になっている。本校の生徒に限らず、生徒が抱える課題や悩みが、教職員や保護者から見えづらくなっている。限界はあると思いますが、カウンセリングや通級などを限られた機会を活用して、それぞれの課題を掘り起こしてください。 ・この問題は、「本校生徒の課題」と言うだけで無く、現代の中・高校生たちの一番の課題である、と認識している。とは言っても、他の項目の評価が高いので、この項目が目立つ感は否めませんが…。本項の場合も、アンケートにより9割位は、肯定的に回答しているのだから、大多数は達成していると判断できるが、残り1割がかなり厳しい状況であると推察される。生活習慣と規範意識の確立を目指し。多様な生徒への対応方法を模索して欲しい。 |
| 4 | ・思いやりや協力・奉仕のできる心の育成に関して「もう一歩」と感じている先生方がいるのは志の高さの表れでもあると思います。思いやりは「自分が大切にされる」実感があればこそ生まれる感情だと思います。引き続き、貴校における丁寧に関わり添おうとする指導を続けることで必ず成果は現われることと思います。 ・やり直しを意識している生徒が殆どだと思います。今は、学校で守られている部分も多いでしょうが、先生方の指導・支援や職場体験等の体験を通して徐々に社会性が育成されていると思います。卒業後には自立した社会生活が送れるように、引き続きご指導・ご支援をお願いします。 ・いじめの案件がないことから、生徒は友好的な人間関係が築けていることが推察される。今後とも、生徒の様子を見守ってください。 ・学校内の人間関係やコミュニケーションの範囲を超えて、実践的な体験を積み重ねることは非常によい機会です。校内指導だけでは実体験として不十分なので、地域社会での体験活動ができる機会を積極的に作ってください。校内とは違う場面で、生徒の気づきがあると思慮します。 ・1回目の学校評議員会でも発言したが、本校の生徒たちは、地域にて批判的な行動はしていないばかりでは無く、地域住民へのあいさつもしっかりできる生徒が多数いることも事実です。いずれ地域で生きていく生徒たちならば、地域の中に入っていき、そこで活動することも大切であると考えます。具体的には、「清掃活動やボランティア活動」もそうですが、各自自治会での行事や活動に参加させてもらおう、という方法もあると思います。 |

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。